

ふるさと便り

―「上越タイムス」の記事より―

北陸新幹線 長野・金沢 平成二十七年三月開業へ（二月）

平成二十六年末の完成を目指して、北陸新幹線長野・金沢間の工事は順調に進められている。新幹線構想から四十一年、上越地区のみならず沿線地域の人の悲願である開通まで六年あまり、並行在来線の存続など山積する課題はあるが、住民の期待は大きい。



「天地人」の風に乗り出陣（二月）

謙信を後継した上杉景勝と家老・直江兼続を巡る時代絵巻は、NHK大河ドラマ「天地人」の電波に乗って、春日山城下を熱くし、平成の武者たちの心意気と一緒に全国に発信しました。



「天地人博」開幕（二月）

上越市を全国に発信する「天地人博」は西本町の直江津屋台会館で、原作者の火坂雅志さんを招き開幕した。テレビの県内視聴率は初回三十六・八％、二回目四十一・五％と発表された。開催は十二月二十日まで。



国登録有形文化財「宇喜世」の記念披露（二月）

仲町三丁目の料亭「宇喜世」は国登録の有形文化財に指定されたのを記念して披露された。現在の建物は明治の中頃割



烹料理屋として建てられたと言われ、近代料亭建築の姿を伝える建物として二つの門と共に昨年十月に登録された。



「世界館」(現高田日活)「近代化産業遺産群 統三十三」に認定（二月）

明治四十四年に芝居小屋「高田座」として建設され、芝居小屋から映画館に引き継がれ近代社会の娯楽、消費文化の歩みを伝えるものとしての認定である。内装、外観とも明治・大正の洋風建築を伝えている。



オーストリア駐日大使 上越を訪問(二)

月) レルヒ少佐の母国、オーストリアのパ
ストル大使が上越を訪れ、金谷山にある
日本スキー発祥記念館を視察した。「レ
ルヒ少佐の知名度の高さ、功績をたたえ
る行事を誇りに思い、両国の友好関係が
続くことを期待する」の言葉があった。



関山神社の銅造菩薩立像 国の重要文化財へ(三月)

銅造菩薩立像は六世紀から七世紀初頭
に制作されたとみられる金銅仏で、高さ
二十・三センチ。朝鮮三国時代の百済仏
と共通点が多く、成分分析から忠清南道

(当時の百済)が産地と判明している。飛
鳥時代、国内に持ち込まれた最も初期の
もので、日本最古の造像である法隆寺・
金銅釈迦三尊脇侍像や夢殿救世観音像と
も多くの共通点を持ち、これらのモデル
になったと推測される。関山神社に祀ら
れるようになった経緯は不明だが、天正
十年、越後に侵攻してきた織田信長勢の
兵火により、金襴はやきはがれ、冠、手
足部を消失したと伝わっている。妙高山
信仰、地域文化の象徴と位置づけ大切に
保存されている。



100年の歴史に幕 直江津・吾妻湯(三月)

長年親しまれてきた直江津中央五の
「吾妻湯」が百年の歴史に幕を閉じた。唯
一となっていた「社交の場」「情報発信の
場」として長く親しまれていた町中の銭
湯がとうとう姿を消した。操業は明治四
十三年。

「越後上越 上杉戦国物語展2009」(四月)

春日山城の出土品や上杉家にまつわる
遺品を埋蔵文化センターで展示されてい
る。「天人博」と合わせて天地人の世界
を紹介している。上杉景勝が作成させた
「越後の国頸城群絵図」や上杉側の視点
で描かれた江戸時代の「紀州本川中島合
戦屏風」の複製、春日山城、御館、直江
兼統の父・兼豊が城主を務めた直峰城な



どの出土品が展示されている。大河ドラ
マ「風林火山」のセットの前で「愛」の
兜を付けて記念撮影するコーナーもあ
る。

十二月二十日まで開催されている。

上越市に再びトキ飛来(四月)

上越市や糸魚川市で相次いで目撃され
たトキが、再び高田地区の水田に飛来
し、水田を歩き回り、餌を探し回ってい
る姿が目撃された。



善光寺でご開帳が始まった(四月)

「ご本尊・一光三尊阿弥如来像は古来より秘仏である。このため同じお姿をした前立御本尊を期間中、宝庫から本堂内々陣へ遷し、七年に一度公開される。本堂前の高さ約十メートルの回向柱と前立御本尊の手とは「善の綱」によって結ばれているため、回向柱に触れることは前立御本尊に触れることと同じご利益があるとされている。全国から六百〜七百万人の参詣者が訪れます。



高田城百万人の観桜会(四月)

NHK大河ドラマ「天地人」善光寺ご開帳、高速道料金割引、連日の晴天、週末の満開などに恵まれ人出が最高潮に達し、昨年より五日早く百万人と越えた。初日には「天地人」で、樋口与六(兼統の幼少名)役の加藤清史郎君がゲストとしてパレードに登場、「与六フィーバー」に包まれた。



前島密没後九十周年記念展(四月)

「郵便の父」の人生と業績をたたえる前島密没後九十周年記念「創業の志」展が上越市池部の前島記念館で開催された。広く知られた郵便、海運、教育、鉄道など幅広い分野で日本の近代化を進めた業績を紹介している。更に江戸遷都、漢字廃止論の建議書、郵便事業の苦心談を記載した原稿なども展示されている。十二月二十三日まで開催中。



米山麓ロードレース(四月)

柿崎区法音寺の柿崎ドーム前をスタートとゴール地点に春の山野を駆ける大会が、二十五部門に分かれて九百五十五人が参加。



虫川大杉に新しいしめ縄(四月)

蒲川原区虫川の白山神社のご神木「虫川大杉」に飾るしめ縄のはり替えが行われた。住民総出で縄をない、新しい幣束と共にご神木に取り付け、春の例大祭に備えた。



無念の戦国武将・景虎をしのび法要(四月)

妙高市の鯨ヶ尾城、二十六才の若さで最期を遂げた上杉景虎をしのぶ「景虎四百三十回忌法要」が妙高市の勝福寺で行われた。



大河ドラマ効果上々 観光客（五月）

ゴールデンウィーク期間中、春日山城址に「天地人」とETC効果が生んだ大波が上越に押し寄せた。バスにゆられて歴史の地巡り「天地人ゆかりの地巡りバス」も池ノ平、赤倉、新井の道の駅で多くの観光客を乗せ賑わっている。



榊原家史料目録が完成（五月）

上越の総合博物館は旧高田藩主、榊原家に伝わる史料をまとめた「高田藩榊原家史料目録・研究」を刊行、現在の当主に寄贈された。史料は榊原家から預かっている旧高田藩和親会が同館に寄託、三年がかりで整理されたものである。



上越の方言を歌に（五月）

中郷区の作詞家・宮崎俊行さんが上越の方言を歌にしたCDとカセット「だすけ、せったかね」を製作制作した。消え

て行く方言を残したいという気持ちから手がけ、「こつお」「いやんばい」「みてみないや」などが随所に取り入れてある。



新グラウンドが完成 高田高校（六月）

校舎の全面改築に伴い整備されていた敷地が、照明灯、散水機能の付いたグラウンドに生まれ変わった。部活動は野球部、サッカー部、ラグビー部が共用し、四面のテニスコートは軟式、硬式で使用。



「青田川のうた」歌詞を募集（六月）

「青田川を愛する会」は九月末日まで公募している。青田川は、ホテル保護区作りのため、一昨年から本格的に河川工事が進められている。



イルカショー 水族博物館（六月）

夏の目玉、イルカショーの主役となるバンドウイルカが静岡県沼津市のシーパラダイスからやって来た。イルカショーは八月二十三日まで。

